

美空ひばりの普及と映画の関係 (1958.7-1963.12)

—— 「東映専属時代」 ——

齋藤 完

The Relation between Popularization of Hibari Misora and her Movies
(1958.7-1963.12)

SAITO Mitsuru

(Received September 26, 2014)

1. はじめに

私からのご挨拶

皆様、毎日お暑い日が続いておりますが、お変わりなくお越しの事と思います。

さて、今月は、色々と私の身の廻りに変わった事がございましたので、日記と別に「ひばりのご挨拶」としてお便りさせていただきます。

まず、デビューから十年間もの長い間なじんできた新芸プロをお別れした事です。(中略) 私達の「ひばりプロダクション」を発足する事になりました。

(中略)

次は東映と専属を結んだということです。

東映には、色々とお世話になった方も多勢いらっしゃいますし、特に仲の良い方が沢山いらっしゃいます。それから、東映という会社のカラーは、私のカラーでもありますので、何しろ仕事し易くこの機会に、というわけで、東映にすべてお任せする事になりました(近代映画 1958年10月号)。

本稿は「東映専属時代」における美空ひばりの普及と映画の関係を明らかにするものである。

冒頭の引用文にあるように美空ひばりは1958年8月18日に東映と専属契約を結んだ。当初は2年6ヶ月の契約であったが、結果的には1963年12月まで専属であり続ける。

約5年の専属時代で美空ひばりは60作品に出演したのだが、そのうち時代劇が39本、現代劇が21本となっている¹。時代劇への偏りは、東映専属であることに起因する。この時期の東映は「東映娯楽版」という連続活劇を添えた二本立て興行で大成功を取っており、「娯楽版」の中心が時代劇であった。そのため「時代劇は東映」というキャッチフレーズがそのまま美空ひばりの出演映画に反映されているのである。

この5年間に關して、今ひとつ言及しておきたいのが、この時期が日本映画の黄金期であり、さらには斜陽化が始まる時期でもあったということである。1958年～1960年の観客動員数は順に11.3億、10.9億、10.1億と大台を維持しているのに対し、1961年～1963年は、8.6億、6.6億、

¹なお本稿の分析では、専属契約を結ぶまえの『おこんの初恋 (1958.7.6)』『ひばりの花形探偵合戦 (1958.8.6)』も対象に加えている (いずれも東映作品)。

5.0億と急激に減少していく。出演作品数もこの状況を反映し、順に、15 (1958) →15 (1959) →11 (1960) →11 (1961) →9 (1962) →8 (1963) となる²。美空が東映との専属を解約したのも、映画産業の斜陽化とは無関係ではないと見るのが妥当だろう。

2. 当該期間における美空ひばり——先行研究の概観の代わりに——

管見が及ぶ限り、当該期間における美空ひばりの普及と映画の関係を俯瞰するような研究はない。そこで、ここでは本稿に先行する「松竹優勢時代後期 (齋藤 2011)」「東映優勢時代 (齋藤 2012)」でも示したとおり、雑誌『平凡』における人気投票「花形歌手ベストテン選出人気投票」の結果を振り返ることで当時の美空の状況を示したい³ (なお、ランキングは男女別になっているが、表1はそれを男女混合にしたうえで上位5人を示したものである)。

【表1】『平凡』誌における人気投票「花形歌手ベストテン選出人気投票」の結果 (1958-63)

	1958	票数	1959	票数	1960	票数	1961	票数
1	美空ひばり	82175	美空ひばり	57929	美空ひばり	52846	橋 幸夫	51280
2	三橋美智也	61903	三橋美智也	40730	島倉千代子	48047	美空ひばり	47454
3	島倉千代子	36364	島倉千代子	35713	三橋美智也	47705	島倉千代子	36637
4	春日 八郎	32712	春日 八郎	25807	春日 八郎	30575	三橋美智也	27430
5	三浦 洸一	17739	神戸 一郎	23720	神戸 一郎	25468	森山加代子	21486

	1962	票数	1963	票数
1	橋 幸夫	58414	橋 幸夫	62304
2	美空ひばり	44237	美空ひばり	53168
3	島倉千代子	38408	島山みどり	38534
4	松島アキラ	29211	坂本 九	33920
5	三橋美智也	26498	五月みどり	29809

1961年以降、総合1位は橋幸夫に奪われるものの、女性部門では1952年から同ランキングが終了する1964年まで1位であり続けた⁴。

また1961年2月号には『平凡』創刊15周年を記念した「オール日本人気スターベスト・テン」が発表され、映画、音楽、放送、演劇、スポーツを総合した人気投票において第1位に選ばれている。

こうした圧倒的な人気の継続は新聞記事にも表れている。

²1958年の数字は美空が専属になる以前の1958年1月～7月までに出演した作品を加えている。

³『平凡』誌上的人气投票「花形歌手ベストテン選出人気投票」は1949年に開始された。同人気投票は「オール歌手人気投票ベスト・テン」「人気歌手ベストテン」などと表記されることもある。美空が初めてランクインしたのは1950年で第9位、その翌年に第3位 (ランキングは1952年から男女別となっている) 表1における応募総数は1958年が412552票、1959年が378358票、1960年が498095票、1961年が501133票で、1962年以降の総数は公表されていない。なお、1964年の上位5人は順に橋幸夫 (62304票)、舟木一夫 (55277票)、美空ひばり (35476票)、西郷輝彦 (29230票)、弘田三枝子 (29123票) となっている。

⁴美空の得票数低下、ならびに橋幸夫の4年連続1位獲得は、美空とそのファンの「高齢化」=『平凡』誌離れが影響しているかもしれない。あるいは1960年代に入り部数を落としていく『平凡』がアイドル誌路線へと転換したことの表れかもしれないが、いずれにしても推測の域を出ない。

美空ひばり——昭和十二年五月二十九日生れ、二十四歳。『河童ブギ』を十二歳で吹込んでから今日まで、三百七十曲のレコードを出し、五百万枚を売りつくし、百三十本の映画に出演した。芸能雑誌が主催する人気投票で、いまも映画スターと歌手の両方で第一位を占め、七月には流行歌手として異例のLP盤を二枚に収録された「美空ひばり全集」が出る。

“昭和のシンデレラ” “戦後最大の歌手” “歌謡界の女王” などといわれる。なにがそんなにうけるのだろうか。

これは1962年5月27日付の朝日新聞(朝刊)に掲載された「美空ひばり その才能と庶民性」と題する特集記事である。紙面の三分の一が割かれているのだが、その文章量と引用したリード文から相変わらずの人気の高さと人々の関心が伺い知れよう。なお、1960年にはレコード大賞最優秀歌唱賞を、1962年にはブルーリボン賞大衆賞を受賞している。同年11月には日活の映画スター・小林旭と結婚し、この時期は公私にわたって充実していたと考えられる。

3. 映画の貢献度

美空ひばりの圧倒的な人気と映画はいかなる関係があったのだろうか。

従来(斎藤 2010、2011、2012)であれば、『映画年鑑』に掲載されている「邦・洋画封切興信録」をもとにして、美空ひばりの映画の観客動員数、ならびに動員数の邦画全体における位置づけを表していた。しかしながら、1959年2月より各社が観客動員数を公表しなくなったため、同様なかたちで映画と美空人気の関係を示すことができない(1961年7月より一部公表再開)。そのため、後述の「5. 映画女優・美空ひばりの評価」をもって、その代わりとしたい。

4. 映画は美空ひばりの何を伝えたのか——歌か？ 演技か？

「美空ひばりの普及と初期映画の関係」(斎藤 2010)において、松竹優勢時代前期⁵に美空が出演した映画は歌本位ではないことを明らかにし、「美空ひばりの普及と映画の関係(1952. 7-1955. 6)——「松竹優勢時代後期」——」(斎藤 2011)では演技の比重が増していることを示唆した。さらに「美空ひばりの普及と映画の関係(1955. 7-1958. 6)——「東映優勢時代」——」(斎藤 2012)で、その傾向が強まったことを指摘した。

表2をみると、東映専属時代における平均上映時間(㊸)は89分40秒、平均出演時間(㊹)は35分58秒、歌唱時間A(㊺)は4分56秒、歌唱時間B(㊻)は7分15秒、出演率は40.2%、歌唱率aは5.5%、歌唱率bは8.1%、歌唱率cは13.7%となっており、演技の比重が高いことが読みとれる。

この傾向は表2での「平均」の下に示した松竹優勢時代前期、同後期、東映優勢時代の数字と比べるとより明確になる。たとえば、歌唱率a(映画全体に占める美空の音楽場面の割合)は、過去から順に6.9%→9.1(7.7)%→5.9%→5.5%、歌唱率b(映画全体に占める美空の音楽が聞こえる割合)は9.4%→13.0(11.5)%→8.8%→8.1%、歌唱率c(美空の出演時間に占める音楽場面の割合)は21.1%→22.3(19.2)%→15.8%→13.7%となっている⁶。

付言すると、『忠臣蔵 櫻花の巻』『忠臣蔵 菊花の巻』『孤剣は折れず 月影一刀流』『勢揃

⁵同論文においては「初期映画」とした。

⁶松竹優勢時代後期には美空が出演した映画の歌唱場面だけを編集して繋ぎ合わせた作品(『ひばりの歌う玉手箱』『美空ひばりの春は唄から』)が含まれており、()の数字はこれらの映画を除いたものである。

【表2】「東映専属時代」における美空ひばりの出演時間／歌唱時間／出演率／歌唱率⁷

	上映時間 ㉔	出演時間 ㉕	歌唱時間 A ㉖	歌唱時間 B ㉗	出演率 ㉕÷㉔	歌唱率 a ㉖÷㉔	歌唱率 b ㉗÷㉔	歌唱率 c ㉖÷㉕
① おこんの初恋 花嫁七変化	84'20"	40'22"	10'56"	14'17"	47.9%	13.0%	16.9%	27.1%
② ひばりの花形探偵合戦	86'49"	48'50"	5'12"	7'47"	56.3%	6.0%	9.0%	10.7%
③ 希望の乙女	95'54"	58'12"	25'23"	33'57"	60.7%	26.5%	35.4%	43.6%
④ 隠密七生記	95'47"	9'11"	1'53"	2'38"	9.6%	2.0%	2.8%	20.5%
⑤ ひばり捕物帖 自雷也小判	87'14"	40'25"	8'45"	14'14"	46.3%	10.0%	16.3%	21.7%
⑥ 娘の中の娘	89'44"	51'39"	6'20"	10'41"	57.6%	7.1%	11.9%	12.3%
⑦ 唄祭り かんざし纏	76'55"	22'58"	2'46"	5'00"	29.9%	3.6%	6.5%	12.1%
⑧ いろは若衆 ふり袖ざくら	80'52"	38'14"	6'25"	9'09"	47.3%	7.9%	11.3%	16.8%
⑨ 忠臣蔵 櫻花の巻	99'05"	3'34"	0'00"	0'00"	3.6%	0%	0%	0%
⑩ 忠臣蔵 菊花の巻	82'59"	8'56"	0'00"	0'00"	10.77%	0%	0%	0%
⑪ 鞍馬天狗	86'50"	28'09"	2'51"	3'41"	32.4%	3.3%	4.2%	10.1%
⑫ 東京べらんめえ娘	83'12"	43'58"	3'07"	5'10"	52.8%	3.8%	6.2%	7.1%
⑬ 孔雀城の花嫁	89'05"	25'12"	1'46"	3'24"	28.3%	2.0%	3.8%	7.0%
⑭ 紅だすき喧嘩状	73'28"	24'01"	4'40"	6'43"	32.7%	6.6%	9.1%	19.4%
⑮ お染久松 そよ風日傘	91'06"	50'10"	4'20"	8'24"	55.1%	4.8%	9.2%	8.6%
⑯ 水戸黄門 天下の副将軍	93'52"	10'13"	1'19"	2'00"	10.9%	1.4%	2.1%	12.9%
⑰ 江戸っ子判官とふり袖小僧	86'15"	40'48"	2'51"	5'17"	47.3%	3.3%	6.1%	7.0%
⑱ 血斗水滸伝 怒濤の対決	114'16"	7'40"	1'26"	2'19"	6.7%	1.3%	2.0%	18.7%
⑲ いろは若衆 花駕籠峠	85'45"	42'30"	5'08"	8'37"	49.6%	6.0%	10.1%	12.9%
⑳ べらんめえ探偵娘	82'27"	45'06"	6'20"	7'59"	54.7%	7.7%	9.7%	14.0%
21 ひばり捕物帖 ふり袖小判	85'53"	36'30"	6'01"	7'30"	42.5%	7.0%	8.7%	16.5%
22 べらんめえ芸者	86'06"	54'56"	7'02"	9'52"	63.8%	8.2%	11.4%	12.8%
23 ひばり十八番 弁天小僧	73'12"	37'34"	5'58"	7'29"	51.3%	8.2%	10.2%	15.9%
24 殿さま弥次喜多	78'42"	12'47"	0'38"	1'19"	16.2%	0.8%	1.7%	5.0%
25 続べらんめえ芸者	82'47"	48'46"	8'06"	10'42"	58.9%	9.8%	12.9%	16.6%
26 ひばりの森の石松	83'23"	59'06"	5'30"	7'27"	70.9%	6.6%	8.9%	9.3%
27 ひばり十八番 お嬢吉三	77'22"	24'41"	0'31"	4'03"	31.9%	0.7%	5.2%	2.1%
28 ひばり捕物帖 折鶴駕籠	87'10"	38'04"	5'08"	6'12"	43.7%	5.9%	7.1%	13.5%
29 続々べらんめえ芸者	75'59"	42'42"	8'35"	11'03"	56.2%	11.3%	14.5%	20.1%
30 風流深川唄	86'56"	36'51"	0'08"	0'08"	42.4%	0.2%	0.2%	0.4%
31 庄助武勇傳 会津磐梯山	90'33"	13'28"	3'00"	4'07"	14.9%	3.3%	4.6%	22.3%
32 天竜母恋い笠	89'18"	55'33"	1'48"	3'25"	62.2%	2.0%	3.8%	3.2%
33 孤剣は折れず 月影一刀流	88'43"	13'05"	0'00"	0'00"	14.8%	0%	0%	0%
34 べらんめえ芸者罷り通る	83'44"	41'49"	7'13"	9'33"	49.9%	8.6%	11.4%	17.3%
35 花かご道中	85'19"	29'53"	2'25"	2'34"	35.0%	2.8%	3.0%	8.1%
36 緋ざくら小天狗	77'27"	38'10"	6'51"	10'50"	49.3%	8.8%	14.0%	18.0%
37 白馬城の花嫁	85'05"	35'34"	4'51"	6'39"	41.8%	5.7%	7.8%	13.6%

美空ひばりの普及と映画の関係 (1958.7-1963.12)

38 魚河岸の女石松	85'05"	48'19"	3'48"	5'16"	56.8%	4.5%	6.2%	7.9%
39 べらんめえ芸者佐渡へ行く	86'30"	43'01"	6'15"	11'54"	49.7%	7.2%	13.8%	14.5%
40 幽霊島の掟	95'02"	10'52"	2'21"	2'47"	11.4%	2.5%	2.9%	21.6%
41 花のお江戸のやくざ姫	87'23"	43'20"	4'31"	5'20"	49.6%	5.2%	6.1%	10.4%
42 風の野郎と二人づれ	——	——	——	——	——	——	——	——
43 べらんめえ中乗りさん	86'04"	48'04"	7'22"	13'03"	55.9%	8.6%	15.2%	15.3%
44 銀座の旅笠	——	——	——	——	——	——	——	——
45 ひばりのおしゃれ狂女	83'00"	43'24"	4'22"	5'10"	52.3%	5.3%	6.2%	10.1%
46 ひばり・チェミの弥次喜多道中記	85'03"	47'22"	8'24"	12'34"	55.7%	9.9%	14.8%	17.8%
47 べらんめえ芸者と大阪娘	87'07"	54'23"	3'31"	5'03"	62.4%	4.0%	5.8%	6.5%
48 千姫と秀頼	85'33"	40'53"	4'13"	4'48"	47.8%	4.9%	5.6%	10.3%
49 民謡の旅・桜島 おてもやん	86'32"	40'34"	4'23"	9'08"	46.9%	5.1%	10.6%	10.8%
50 ひばりの母恋ギター	83'26"	47'14"	8'26"	12'20"	56.6%	10.1%	14.8%	17.9%
51 三百六十五夜	94'56"	18'17"	2'49"	6'59"	19.3%	3.0%	7.4%	15.4%
52 ひばりの佐渡情話	86'13"	33'28"	8'05"	13'41"	38.8%	9.4%	15.9%	24.2%
53 ひばりの花笠道中	83'29"	38'13"	7'47"	11'25"	45.8%	9.3%	13.7%	20.4%
54 お坊主天狗	94'09"	16'18"	2'06"	3'19"	17.0%	2.2%	3.5%	13.1%
55 勢揃い東海道	93'51"	14'48"	0'00"	0'00"	15.8%	0%	0%	0%
56 旗本退屈男 謎の竜神岬	88'24"	10'21"	3'44"	4'19"	11.7%	4.2%	4.9%	36.1%
57 ひばり・チェミのおしどり千両傘	86'17"	42'17"	6'08"	8'02"	49.0%	7.1%	9.3%	14.5%
58 べらんめえ芸者と丁稚社長	87'37"	51'00"	9'41"	11'24"	58.2%	11.6%	13.0%	19.0%
59 夜霧の上州路	83'10"	39'53"	1'42"	2'20"	48.0%	2.0%	2.8%	4.3%
60 民謡の旅・秋田おぼこ	80'07"	35'04"	6'36"	11'05"	43.8%	8.2%	13.8%	18.8%
61 残月大川流し	85'06"	44'10"	4'25"	6'23"	51.9%	5.2%	19.0%	10.0%
62 おおは侍だ 命を賭ける三人	93'34"	15'28"	0'00"	0'00"	16.5%	0%	0%	0%
平均	89'40"	35'58"	4'56"	7'15"	40.2%	5.5%	8.1%	13.7%
松竹優勢時代前期平均	82'50"	26'54"	5'41"	7'48"	32.5%	6.9%	9.4%	21.1%
松竹優勢時代後期平均 ⁸	84'45"	34'34"	7'41"	11'02"	40.8%	9.1%	13.0%	22.3%
東映優勢時代	86'48"	32'37"	5'09"	7'37"	37.6%	5.9%	8.8%	15.8%

⁷ 歌唱時間 A とは、美空ひばりが画面上に確認でき、かつ彼女の歌が聞こえてくる時間をさす。なお、歌唱時間には前奏や他者による掛け声などの時間も含んでいる。また、鼻歌や寝言での歌、さらには踊りのみの場合も「歌」としてみなしている。歌唱時間 B は、歌唱時間 A に美空の歌が彼女の映像を伴わずに聞こえてきた時間を加えたものであるが、クレジット・タイトルの背景音楽として美空の歌が流れている場合もこれに含んでいる。割合はすべて小数点以下第二位を四捨五入したもの。なお、DVD/VHS ビデオにおける時間を計測しているため、作品の一部がカットされて DVD/VHS ビデオ化されている場合には、カット分はデータに反映されていない。

⁸ ただし、松竹優勢時代後期には美空が出演した映画の歌唱場面だけを編集して繋ぎ合わせた作品（『ひばりの歌う玉手箱』『美空ひばりの春は唄から』）が含まれており、これらを除くと、出演率は40.0%、歌唱率 a は7.7%、歌唱率 b は11.5%、歌唱率 c は19.2%となり、演技重視の傾向はさらに鮮明になる。

い東海道』『おれは侍だ 命を懸ける三人』のようにまったく音楽場面を伴わない作品も見られる。これらの出演率は軒並み低く、松竹優勢時代前期における「美空は出番の少ない作品においてこそ、歌うことを主としている（齋藤 2010）」のと逆の現象が起きている。いわば、歌わずともその姿を見せることだけで集客ができる存在とみなされるようになったということであろう。

5. 映画女優・美空ひばりの評価

1960年、『キネマ旬報』誌はグラビア欄に「戦後日本映画人ベスト・テン」と題する特集を掲載した。

この特集は「戦後映画界に入り、一本立（ママ）になった人々」を対象とし、「戦後によほど大きな地位を築き強い影響力を映画界全体に与え（中略）今なお第一線にあり、さらに日本映画の明日を作り得る可能性を」もつ映画人を10人選出するものである。市川崑（映画監督）、橋本忍（脚本家）、塩次秀雄（映配社長）、大川博（東映社長）のほかに男優4人、女優2人の名前が挙げられており、美空ひばりは、石原裕次郎、市川雷蔵、中村錦之助、三船敏郎、京マチ子らとともに名を連ねている。

女優の選出においては、まず「人気の広さ、生命の永さ、国際的な名声、演技力の高さ、性格の新鮮さ等から、女優として美空ひばり、山本富士子、京マチ子、有馬稲子（中略）を選出し、「いずれも個性的なすぐれた演技によって幾多の傑作をつくり出した人、一時代を画する人気を以って、戦後映画の傾向を代表する人ばかりである」と評したのちに、「美空ひばりほど、絶対的な人気を、それを十余年の永きにわたって持ちつづけた女優も少い。そして彼女がつくり出したブームは戦後日本の一つの歩み、時代的特質をよく現わしている」という理由から彼女のベスト・テン入りが決定されている⁹。

また、美空は1962年に第十二回ブルーリボン大衆賞（1961年度）を受賞している。この賞は第四回（1953年度）に長谷川一夫が受賞したのを最初に、その後は第六回（1955年度）に片岡千恵蔵、第七回（1956年度）に市川歌右衛門、第八回（1957年度）に渡辺邦夫、第九回（1958年度）に中村錦之助、第十回（1959年度）に月形龍之介、第十一回（1960年度）に小林桂樹が受賞している。これらの顔ぶれから、いわゆる名画ではないが、娯楽性の高い作品にかかわり、人々の高い支持を受けている映画人に贈られる賞であると推察できる。『報知新聞』では「ここ二、三年いつも候補にあがりながら栄冠を逸していた美空ひばりにとって、こんどの大衆賞受賞は、やはり大きな喜びであったらしい」と報じられている（報知新聞 1962.1.10）。

以上に明らかなように、東映専属時代において美空ひばりは女優として確固たる地位を築き上げていたと言うことができよう。

参考文献

- 加藤和也 2011 『美空ひばり公式完全データブック 永久保存版』東京：角川書店
 キネマ旬報編集部編 1994 『美空ひばり映画コレクション』東京：キネマ旬報社。
 齋藤完 2010 「美空ひばりの普及と初期映画の関係」『山口大学教育学部 研究論叢 芸術・体育・教育・心理』第60号：115-126。
 齋藤完 2011 「美空ひばりの普及と映画の関係（1952. 7-1955. 6）——「松竹優勢時代後

⁹京マチ子は「日本映画を国際的に知らしめた」功績が評価された。

- 期」——』『山口大学教育学部 研究論叢 芸術・体育・教育・心理』第61号：137-145。
- 斎藤完 2012 「美空ひばりの普及と映画の関係(1955.7-1958.6)——「東映優勢時代」——」
『山口大学教育学部 研究論叢 芸術・体育・教育・心理』第62号：145-152。
- 時事通信社 1959 『映画年鑑 1959』東京：時事通信。
- 時事通信社 1960 『映画年鑑 1960』東京：時事通信。
- 時事通信社 1961 『映画年鑑 1961』東京：時事通信。
- 時事通信社 1962 『映画年鑑 1962』東京：時事通信。
- 時事通信社 1963 『映画年鑑 1963』東京：時事通信。
- 時事通信社 1964 『映画年鑑 1964』東京：時事通信。
- 美空ひばり 1958 「私からのご挨拶」『近代映画』10月号：65。
- 著者不詳 1958 「戦後日本映画人ベスト・テン」『キネマ旬報』1077号(通巻)：15-24。
- 著者不詳 1959 「花形男女歌手ベスト・テン」『平凡』15巻4号：228-231。
- 著者不詳 1960 「花形歌手男女ベスト・テン」『平凡』16巻3号：206-209。
- 著者不詳 1961 「オール日本人気スターベスト・テン」『平凡』17巻2号：137-139。
- 著者不詳 1961 「'61男女ベストテン決まる！」『平凡』17巻8号：87-89。
- 著者不詳 1962 「映画で初受賞の美空ひばり」『報知新聞』1月10日。
- 著者不詳 1962 「美空ひばり その才能と庶民性」『朝日新聞』5月27日。
- 著者不詳 1962 「人気歌手ベスト・テンの栄冠決まる!!」『平凡』18巻9号：169-171。
- 著者不詳 1963 「人気歌手ベスト・テン決まる！」『平凡』19巻10号：90-91。